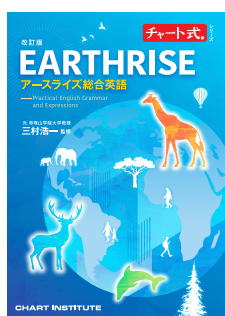


● EARTHRISE シリーズ 文法参考書のご案内 ●



11082

改訂版 チャート式シリーズ

EARTHRISE

アースライズ総合英語

—Practical English Grammar and Expressions

元 帝塚山学院大学教授 三村 浩一 監修

※ 2025 年 10 月改訂版発行予定



参考書の
詳細は
こちら！

A5 判／648 頁(予定)／別冊解答(80 頁)／暗唱例文集(80 頁)／別冊 4 技能連携ハンドブック(80 頁)
数研テストマスター 完備／デジタル副教材(エスビューア；別売(予定)) ⇒ p.94

◆QR コードから以下の活動が可能！

文法解説動画の視聴／基本例文の音声再生／〈数研発音マスター〉を用いたスピーキング練習

◆チャート×ラボから Google フォーム／Microsoft Forms テストデータ(レディメイドタイプ)と
基本例文の音声データをダウンロードしていただけます。

本書の特色

1. 文法を 4 技能に活かすことを大切に考えた参考書です

◆本編は、使用レベルを意識した〈2-Stage〉構成。

学年や目的に応じて必要な Stage を効率的に学べます。

◆別冊付録「4 技能連携ハンドブック」で、文法だけでなく、Speaking／Listening／Reading／Writing の基礎を確認。4 技能を用いたさまざまな活動の下支えとなります。

⇒詳しくは p.79

2. チャート式シリーズのよさを存分に活かし、生徒さんの自学を応援する参考書です

◆視覚的な理解を促す図解やイラスト、イメージ図などを豊富にご用意。

◆ルールや形の理解だけにとどまらない、生徒さんの疑問に答えるコラムも満載。

◆QR コードから、気軽に例文音声や解説動画にアクセス。数研発音マスターでスピーキング練習も可能。

3. 教科書 Revised EARTHRISE English Logic and Expression I Advanced／Standard と連携しています

⇒ pp.48～49

◆教科書の Key Expressions／Expressions Plus と扱う文法配列・例文が同じなので、
並行しての学習がしやすくなっています。

◆Key Expressions で学んだ文法事項を表現に活かすためのコラム Tips for Expression が、
文法と表現の橋渡しをします。

参考書『チャート式シリーズ EARTHRISE 総合英

『改訂版 チャート式シリーズ EARTHRISE 総合英語』とその準拠シリーズでは、表現活動の支えとなる文法をしっかりと学べます。教科書と文法配列や例文がそろっているので、教科書と併用することで、文法学習と表現活動をバランスよく行うことができます。



教科書 Revised EARTHRISE
English Logic and Expression I
Advanced/Standard

教科書 p.36 Key Expressions

Key Expressions
[See page 40 | Expressions Plus](#)

- **Can I walk to the museum from here? (I.4)**
⇒「～できる」を表す場合に can を用いる。
- **Can I take a photo of the map with my smartphone? (I.12)**
⇒「～してもいいですか」と許可を求める場合に、Can I ～? を使うことができます。May I ～? より一般的でよく使われる。
- **May I ask you a question? (I.2)**
⇒「～してもよろしいですか」と許可を求める場合に May I ～? を使う。丁寧で堅い言い方。

教科書 p.40 Expressions Plus(課末：文法表現のまとめ)

Expressions Plus
能力・許可・義務などを表す
 助動詞 1

- 「～できる」：能力・可能を表す ▶ **can**

1 Can I walk to the museum from here?
 ここから博物館まで歩いて行けますか。 **可能** KE p. 36
 ⇒「～できる」は can を使って表せる。
 Ryo **can** run 50 meters in seven seconds. (リョウは 50 m を 7 秒で走ることができる。) **能力**
- 「～してもいい」：許可を表す ▶ **can/may**

2 Can I take a photo of the map with my smartphone?
 その地図の写真をスマホで撮ってもいいですか。 **一般的な言い方** KE p. 36
3 May I ask you a question? 質問をしてもよろしいですか。 **丁寧で堅い言い方** KE p. 36
 ⇒「～してもいいか」と許可を求めるには Can I ～? や May I ～? を使う。
 ⇒ May I ～? は Can I ～? より丁寧で堅い言い方。一般的には Can I ～? のほうがよく使われる。

●教科書と併せて文法を体系的に学ぶためのレッスンブックもご用意しています！



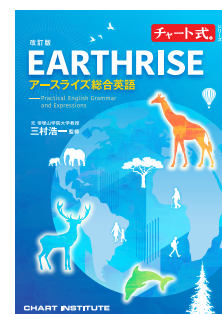
改訂版 EARTHRISE English Logic and Expression I レッスンブック

- ◆教科書と参考書に対応しており、それぞれの参照ページ付きです。
- ◆文法の基礎が体系的・網羅的に身につきます。
- ◆教科書の基本例文を含んでおり、教科書での文法学習を補強するのに最適です。
- ◆提出しやすい別冊ワークで、文法力の定着が図れます。

語』との連携で、文法学習をしっかりとサポート



参考書の詳細はこちら！



参考書 改訂版 チャート式シリーズ
EARTHRISE 総合英語

※ 2025 年 10 月改訂版発行予定

Key Expressions の例文には●, Expressions Plus の例文には○をつけ、参照しやすくしています。

参考書解説

a 能力・可能を表す

- Ryo **can** run 50 meters in seven seconds. **<能力>** 52
- **Can** I walk to the museum from here? **<可能>** 53
—Sure. It's only five minutes from here.

52 リョウは 50m を 7 秒で走ることができる。
53 ここから博物館まで歩いて行けますか。—もちろん。ここからほんの 5 分ですよ。

1 能力を表す can：「～することができる」 (⇒52)
▶ 主語(人やもの)に備わっている能力を表す。52 は「リョウに 50m を 7 秒で走る能力がある」ことを表す。過去形は could。(●p.103 **1**)
This hall **can** hold up to 500 people. * up to ～「(最大で)～まで」

より詳しく
きめ細やかな学習に

教科書と参考書がリンク

表現活動に
つながる学習に

参考書

Tips for Expression!

Key Expressions で学んだ文法を
表現活動へとつなげるのに役立つ
コラムです。

Tips for Expression!
6 ● 許可を求める can と may との違い

「～してもいいですか」と相手に許可を求める表現 Can I ～? と May I ～? について、2 つの違いをここで整理しておこう。

- (1) **Can I ask you a question? (質問していいかな。)**
- (2) ● **May I ask you a question? (質問をしてもよろしいですか。)** 59

(1) **Can I ～?** は形式ばらないくただけの言い方で、友人どうしなど、話し手と聞き手が**対等の立場**や**親しい関係**にある場合に使うのが普通。答え方は、p.102 を参照。

(2) **May I ～?** はより形式ばった表現で、先生と生徒、親と子などの間で、**立場が下の人が上の人**に対して使う。答え方は、許可を与える場合に、Yes, you **may**.

⇒参考書シリーズにつき、詳しくは、pp.76～81 をご参照ください。

●体系的な文法学習をサポートする安心の EARTHRISE English Grammar シリーズ！

扱う文法内容(レッスン数)によりそれぞれ 3 種類の英文法テキスト・ワークブックをご用意。学習プランにあわせてお選びいただけます。

【テキスト】改訂版 EARTHRISE English Grammar in 33/26/22 Stages

【ワークブック】改訂版 Workbook for EARTHRISE English Grammar in 33/26/22 Stages

● Where are you going with that large suitcase?
— Oh, I've **just returned** from a short trip to Kyoto.
(そんな大きなスーツケースを持ってどこに行くの。
— ああ、京都への小旅行が今ちょうど戻ったところなの。
【→だから今、スーツケースを持っている】)

Have you had lunch yet? — Yes, I have **already eaten** lunch.
No, (I **have**) not (eaten lunch) yet.
(もう昼食を食べましたか。— はい。もう昼食を食べました。
いいえ。まだ食べていません。)

【参考】① already や just が過去形とともに使われ、完了の意味を表すことがある。
I **already washed** the dishes. (私はもう皿を洗いました。)
He **just arrived** at the station. (彼は今駅に着いたところだ。)
現在完了形に比べるとくだけた言い方で、会話でよく使われる。
② already が疑問文で使われると「もう～したのか」という意外や驚きを表す。
Have you **already spent** the money?
(「聞いて」もうお金を使ってしまったの?)

1-2 経験を表す：「[今までに]～したことがある」

● I've **visited** Kiyomizu-dera **three times**. 40
私は清水寺に3回行ったことがあります。

▶ 「～したことがある(～した経験をもっている)」という現在までの**経験**を表す。
40 では、「清水寺に行く」という経験が、現在までに「3回あった」とことを表している。

1回目 2回目 3回目 現在

● (経験)を表す**現在完了形**とともに
before(今までに), **ever**(今まで),
once(1度), **twice**(2度), **th**
sometimes(ときどき), **often**

Have you **ever seen** the...
— No, I've **never seen**...
(富士山に昇る日の出を見たこと)

**視覚的な理解を促す
図解やイメージ図も豊富に取り入れています。**

How many times (How often) has Ken **flown** in an airplane?
— (He **has** [=He's] **flown** in an airplane) **Twice before**.
(ケンは今までに何回飛行機に乗ったことがありますか。— 今までに2回です。)

● I've **been to** Kyoto many times. (私は京都には何度行ったことがあります。)
● アメリカ英語ではくだけた言い方で、**have/has gone to** → がこの意味で使われることもあるが、イギリス英語では誤りとされるので注意。

3 動詞と時の表し方 ② — 完了形

注意 have been to ～の2つの意味

have been to ～は、①「～に行ったことがある(経験)のほかに
②「～に行ってきたところだ(完了)」の意味も表す。
どちらの意味を表すかは、ともに使われている副詞(句)などから判断する。
Aya **has just been to** Paris. (アヤはちょうどバパリに行ってきたところだ。)
● **just**(ちょうど今)から**(完了)**の意味と判断できる。
Aya **has been to** Paris **once before**. (アヤは前に一度バパリに行ったことがある。)
● **once**(一度), **before**(前に)から**(経験)**の意味と判断できる。
このように、現在完了形は文脈や副詞(句)などからその意味が分かる。

**コラム：Tips for Writing
→英語を書く際に誤りやすい文法事項を、○×形式
などで紹介しています。**

Tips for Writing!
私は小学生のころに、その時
○ I **saw** that movie **when** I was 10.
× I **have seen** that **movie** **when** I was 10.
student.

▶ 「見たことがある」という日本語から、(経験)を表す現在完了形と機械的に判断してはいけません。「小学生のころ」が**過去**を表すことは文脈から明らか。よって、この「見た」は過去のあるときに起こり、済んでしまったことなので、現在までの経験を表す現在完了形ではなく、**過去形**で表すのが正しい。
→ **→ ① ②** 「現在完了形と「時」を表す副詞(句・節)」(p.88)も参照しよう。

参考 「～するの一回目は、次のように表すことができます。
This is the **first/second, third,...** time I've (ever) visited this park.
(私がこの公園を訪れるのは、これが初めて[2回目、3回目...]です
【→これが私が今までにこの公園を訪れた最初[2回目、3回目...]の時です。】)

7 should のその他の用法

shouldの中心的なイメージは「**当然進むべき方向**」です。
そこから派生する意味は、「当然そうすべきである」(義務)
「当然そのはずだ」(推量)
ここでも、このイメージと関連づけて学んでいきましょう。

a that 節中で使われる should

The chairperson **suggested** we **should** have another meeting next week. 91
It is **necessary** that Mr. Bush **should** have an operation. 92
It is **surprising** that she **should** know nothing about the plan. 93

91 議長は翌週また会議を開くことを提案した。
92 ブッシュ氏は手術を受けることが必要です。
93 彼女がその計画のことを何も知らないなんて驚きだ。

● **提案・要求などを表す動詞に続く that 節中で (⇒91)**

▶ 「～するように(提案する、要求する)」といった意味を表す。提案・要求などを表す動詞との結びつきから「**当然そうすべきだ**」という意味合いを含む。

● **提案・要求などを表す動詞**
suggest/propose(提案する), **demand/request**(要求する),
order(命令する), **recommend**(勧める), **advise**(忠告する), etc.

He **demand**ed that the bus driver **should** apologize for his rudeness.
(彼はバス運転手に、失礼をわびるよう求めた。)

▶ **should** を省略して、**動詞の原形**を使うことも多い。**主語が3人称単数でも原形になる。**(p.340)

The doctor **recommended** that my mother **cut down** on sugar.
(医師は母に糖質を減らすように勧めた。)

【参考】上の枠内にある動詞でも、提案・要求以外の動詞の場合は、that 節中で should や動詞の原形を使わなくてよい。
意味の文の suggest は「暗示する」の意味。
I'm not **suggesting** (that) you are responsible for the accident.
(その事故の責任があなたにある、と言っているのではありません。)

2 必要性・重要性などを表す形容詞に続く that 節中で (⇒92)

▶ 「～する(ことが必要だ)」といった意味を表す。必要性・重要性などを表す形容詞との結びつきから「**当然そうすべきである**」という意味合いを含む。

● **必要性・重要性などを表す形容詞**
necessary(必要な), **important**(重要な), **essential**(不可欠な),
urgent(急務の), **desirable**(望ましい), **proper**(適切な), etc.

It's **important** that you **should** speak clearly in an interview.
(面接では、ハキハキと話すことが重要です。)

▶ **should** は省略して、**動詞の原形**を使うことも多い。
92 → It is **necessary** that Mr. Bush **have** an operation.

【参考】(米)では原形。(英)では(should+原形)が普通であったが、最近では(米)でも(should+原形)。(英)でも原形が使われるようになっており、(米)(英)の差はあまりないと考えてよい。

3 感情や主観的判断などを表す形容詞・名詞に続く that 節中で (⇒93)

▶ この should には、「～だ[～する]なんて」という意外や疑いの気持ちが込められている。

● **感情や主観的判断などを表す形容詞・名詞**
strange(奇妙な), **surprising/amazing**(驚くべき), **lucky/fortunate**
(幸運な), **unlucky/unfortunate**(不運な), **natural**(当然の),
a pity/a shame(残念な), etc.

It's **a pity** that Emily **should be** unable to come to tomorrow's party.
(エミリーが明日のパーティーに来られないなんて残念だ。)

It's **natural** that you **should be** nervous in front of a lot of people.
(大人数の前であなたが緊張するのは当然です。)

▶ 「～だなんて」といった感情を伴わず、**客観的事実**として言う場合、**should** は使わない。また、この③の用法で**動詞の原形**は使わない。
93 → It is **surprising** that she **knows** (×**know**) nothing about the plan.
(彼女がその計画のことを何も知らないのは驚きだ。)

【参考】「～したなんて」と過去(あるいは過去より前の)ことについて述べる場合は、(should+have+過去分詞)で表す。
It was **unfortunate** that my brother **should have broken** his leg.
(兄が脚を骨折したとは不運だった。)

Second Stage :

やや発展的ですが、知っておきたい項目を扱っています。

◆その他のコラム

1 ネイティブの感覚 **5 「命令文=命令」とは限らない！**

命令文は、相手に対して指示などを表す強い表現ですが、必ずしも「命令」の意図があるわけではありません。それが使われている状況や話し手と聞き手の関係などによって、その意味合いは変わってきます。

たとえば、以下のように**勧誘や助言・注意**などを表す場合、初対面の人や目上の人に命令文を用いても、失礼にはなりません。

① 相手への誘いとわかんとき (家や店に客を迎える場合など)
Come on in. / Take a seat. (お入りください。/ おかけください。)

② 相手のためになる(と思われる)行動を勧めるとき (電車のアナウンスなど)
Change trains at the next station for Kobe. (神戸へは、次の駅で乗り換えください。)

③ 相手に注意を促すとき (足元にご注意ください。)
Watch your step.

日本人はよく、ていねいさを出すためにpleaseをつけますが、上のような場合、その必要はありません。また、pleaseをつけても、ていねいさのニュアンスがそれほど強まるわけではない、ということも覚えておきましょう。

コラム：ネイティブの感覚

→日本人にはニュアンスが理解しづらい表現などについて、ネイティブ・スピーカーの視点から、とらえ方を解説しています。

Second Stage

REAL ENGLISH

3 悩み相談室の助動詞

これまで学んできたように、助動詞は動詞に話し手の判断や気持ち添える。相手に自分の気持ちや考えを正しく伝えたり、依頼や助言をするときには、助動詞を正確に使い分けことがとても大切な。

以下は、あるウェブサイトの悩み相談のQ&Aである。
助動詞をどのように使い分けられているだろうか。

Dear Ms. WebMom,
① I have a serious problem. ② I'm on the basketball team and I enjoy playing basketball, but I **cannot** focus on my studies. ③ My grades are falling and my parents say I **must** quit the team. ④ What **should** I do? ⑤ **Could** you give me some good advice?
K.M.

⑥ ウェブママさんへ
⑦ 私は深刻な問題を抱えています。⑧ 私はバスケットボール部に所属していて、バスケットボールをするのは楽しんでいますが、勉強に集中できません。⑨成績は下がりつつあり、両親は部退を求めたいと言っています。⑩どうすればいいのでしょうか。⑪なにかよいアドバイスをいただけませんか。
* focus on 「～に集中する」 grade「成績」

▶▶▶ 注目ポイント
● my parents say I **must** quit the team
→ **must** 「しなければならない」が使われていることで、(選択の余地がないくらい)強く「やめなさい」と言われていることがわかる。
should ならば、「やめたほうがいいんじゃないの?」くらいの強さ。
● What **should** I do? 「私はどうすればいいですか」

コラム：REAL ENGLISH

→看板や広告、ウェブサイトなど、日常で実際に使われている英語の例を、その章で扱われる文法事項とからめて紹介しています。

〈参考書 別冊付録〉4 技能連携ハンドブック ■ A5判(80頁)

(収録内容)

〈基礎文法編〉：英語の語順／英語をつくる部品—品詞と句・節

〈Speaking／Listening編〉：英語の発音を学ぼう／場面に合った表現を使おう(フォーマル・インフォーマル)／機能別表現リスト など

〈Reading／Writing編〉：パラグラフの構成・展開パターン／英語の発想で文を書こう／英語の句読法／手紙・メールの書き方 など

授業や日常学習で、気軽に開いていただけるハンドブックです。

基礎文法

1 英語の語順

2 英語の発音

3 英語の文法

4 英語の語彙

5 英語の文法

6 英語の語彙

7 英語の文法

8 英語の語彙

9 英語の文法

10 英語の語彙

11 英語の文法

12 英語の語彙

13 英語の文法

14 英語の語彙

15 英語の文法

16 英語の語彙

17 英語の文法

18 英語の語彙

19 英語の文法

20 英語の語彙

21 英語の文法

22 英語の語彙

23 英語の文法

24 英語の語彙

25 英語の文法

26 英語の語彙

27 英語の文法

28 英語の語彙

29 英語の文法

30 英語の語彙

31 英語の文法

32 英語の語彙

33 英語の文法

34 英語の語彙

35 英語の文法

36 英語の語彙

37 英語の文法

38 英語の語彙

39 英語の文法

40 英語の語彙

41 英語の文法

42 英語の語彙

43 英語の文法

44 英語の語彙

45 英語の文法

46 英語の語彙

47 英語の文法

48 英語の語彙

49 英語の文法

50 英語の語彙

51 英語の文法

52 英語の語彙

53 英語の文法

54 英語の語彙

55 英語の文法

56 英語の語彙

57 英語の文法

58 英語の語彙

59 英語の文法

60 英語の語彙

61 英語の文法

62 英語の語彙

63 英語の文法

64 英語の語彙

65 英語の文法

66 英語の語彙

67 英語の文法

68 英語の語彙

69 英語の文法

70 英語の語彙

71 英語の文法

72 英語の語彙

73 英語の文法

74 英語の語彙

75 英語の文法

76 英語の語彙

77 英語の文法

78 英語の語彙

79 英語の文法

80 英語の語彙